

第10章 調査区III

1. 概要

調査区IIIは、西側洞口外の底部下に設定した発掘区で、発掘面積は約 12 m²である。現在、この地点は非常に乾燥しており、雨水の流入もほとんどなく、かつては風葬墓として利用されていたようである。

調査区近辺の堆積層は相当程度搅乱されており、J23・24 北壁セクション面よりも南側では、XIID 層以上が搅乱でほぼ完全に失われていた。地表下約 1.5m まで掘削したが、まだ基盤には到達していない。表土直下のフローストーン層（FS 層）より下位に XI 層～XV 層まで細別層位も含めて 9 枚の堆積層を確認した。調査区IIIの堆積層は層相、含有物とも調査区Iのそれとよく類似しており、両者は一連の堆積物と考えて矛盾ない。最下部の XV 層は石灰岩礫を多く含む褐色の粘質土からなり、シカ類化石が比較的多く出土した。

2. 層序

全体的な地層の堆積状況は調査区Iとほぼ同様であり、FS 層下に 2 枚の炭化物層（XIIB、XIID）を挟む褐色土層の堆積が見られた。XII～XIV 層にはカタツムリやカワニナ等が含まれており、XIID 層では甲殻類の遺骸（カニの鉗脚）や貝器を含む海産貝類も出土した。XIII 層は石灰岩礫を多く含んだ落盤層と考えられ、シカ類化石が少量出土した。K23 区側で厚く、J23・24 北壁セクションでは確認できない。XIV 層からは赤色土集中部が 3 箇所（SX05、06、10）検出されているが、

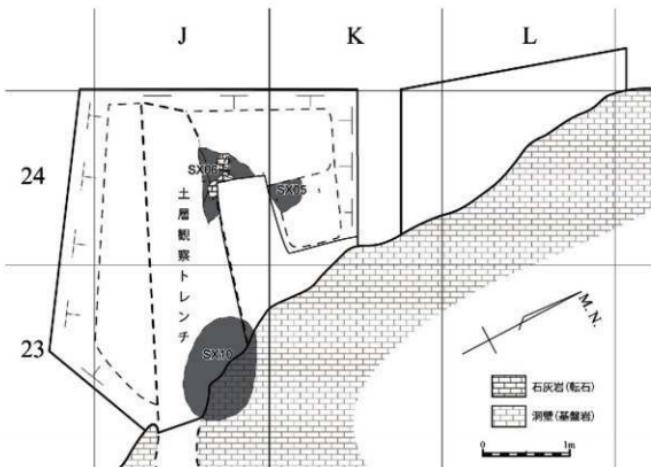


図 10-1 調査区IIIの遺構配置図

第10章 調査区III

表10-1 調査区IIIの層序

層名	色調	記載	遺傳	人工・人為遺物	動物遺骸	年代(層年)
表土	灰黃褐色土 (10YR8/2)	よく乾燥して粉末状を呈する。粘性弱、し土り弱。粒径10~5mm程度の石炭岩礫多く含む。土器片、人骨含む。		土器、石器	人骨、貝類	
FS層	フローストーン	石炭分に上って固結したフローストーンの層。調査区IのPS層に連続するものと考えられる。調査区IIIでは側壁に沿って部分的に確認されたのみであるが、残存部分はよく固結化している。123区から124区まで続いていることが確認できた。			陸産貝類	
XII層	黄褐色土 (10YR8/6)	頭面カルシウムの浸漬による変色が見られる。シルト質で粘性弱。しまり中、炭化物、植物質(カタツムリ)を含む。			陸産貝類	15500~ 14000年前
XIIA層	明黄褐色土 (10YR8/6)	粘土質で粘性弱、しまり良。粒径3~2cm程度の石炭岩礫多く含む。炭灰、陸産貝(カタツムリ)、淡水貝(カワニナ)、アコニ遺物を含む。			陸産貝類 淡水貝類 甲殻類	
XIB層	灰黃褐色土 (10YR6/2)	XBA層、XBC層に比較して今や暗い色調である。粘性弱、しまり良。含有物はXIA層と同様だが濃度である。骨片も含まれる。調査区IのII層(II-IC層?)に相当するものと推定される。			同上	18500年前
XIC層	にじむ黄褐色土 (10YR6/4)	粘性弱、しまり良。含有的XIXA層と同様である。粒径50~200μm程度の石炭岩礫を多く含む。調査区IのII層(II-IC層?)に相当するものと推定される。			同上	
XIIID層	灰黃褐色土 (10YR5/2)	粘性中、しまり良。含有的XIIA層と同様である。カニ貝殻等の貝類の上に薄い土層が置かれており、その上に石炭岩礫が認められた。粒径100cm程度の石炭岩礫を含む。		貝殻	陸産貝 淡水貝 甲殻類	23000~ 22500年前
XIII層	褐色土 (10YR4/4)	粘性中、しまり良。粒径10~20cmの大粒石炭岩礫多く含む。上部には固結した弱いフローストーンが認められる。落盤に伴う堆積物と思われる。			陸産貝類 貝殻(シカ類)	34000年前
XIV層	褐(5YR6/6) ~ 黃褐色 (10YR8/6)	粘性弱、しまり良。陸産貝(カタツムリ)を多く含む。部分的に灰岩や陸上地殻と考えられる土の土壌母岩が、集中して検出された。粒径30cm以下の石炭岩礫を多く含む。	SX05 SX06		陸産貝類	37500~ 31000年前
XVA層	褐色土 (10YR4/4)	粘土質の土層で、根糸中、じき良。粒径20~100cm程度の石炭岩礫を含む。シカ貝殻を含む。下部のXVB層との間に薄いフローストーン層が認められた。			陸産貝類 貝殻(シカ類)	
XVB層	褐色土 (10YR4/4)	層相はXVA層とは同様であるが、やや黄色色味を帯びる。粒径2cm程度の黄褐色土塊(頭面カルシウムの浸漬によるノジュールル)が多く含まれている。			陸産貝類 貝殻(シカ類)	39000~ 38500年前

*各層の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色図2007年版」に基づく。

表10-2 調査区IIIの放射性炭素年代値

番号	采掘no.	試料名	採取区	層	種類	$\delta^{13}\text{C}(\text{‰})$	標正年年代	年代値	^{14}C 年代(±標準偏差)
1	PLD-21783	SAB232	■ X層	炭化材	20.23±0.16	-17.038±0.35	12,040±25	12,040±25	10,600(±68.7%)
2	PLD-21780	SAB251	■ X層	陸産貝類(カタツムリ)	7.96±0.20	-12.964±0.36	12,965±25	13,653(±1429)	12,510(±1349) cal
3	PLD-21786	SAB284	■ X層	炭化材	27.56±0.22	-15.097±0.42	15,096±40	15,096(±68.7%)	14,620(±68.7%)
4	PLD-24987	SAB811	■ X層	炭化材	-29.43±0.19	-19.987±0.54	18,870±20	20,988(±2063)	20,988(±2063) cal
5	PLD-24988	SAB812	■ X層	炭化材	-27.66±0.14	-19.130±0.57	19,130±40	21,197(±2055)	21,197(±2055) cal
6	PLD-24248	No.2	■ X層	炭化材	-30.26±0.23	-27.358±0.93	17,388±90	20,988(±2063)	20,988(±2063) cal
7	PLD-25429	SAB847	■ XN層(SX10)	炭化材	-23.41±0.17	-28.603±0.05	28,600±10	31,069(±3063)	31,308(±3060) cal
8	PLD-21785	SAB282	■ X層	炭化材	-26.94±0.16	-28.389±0.05	28,380±10	30,362(±3075)	31,541(±3076) cal
9	PLD-21784	SAB276	■ X層	炭化材	-27.57±0.18	-30.003±0.17	30,060±20	32,294(±3210)	32,450(±3191) cal
10	PLD-22910	SAB378	■ X層	炭化材	-25.77±0.15	-30.073±0.11	30,370±10	32,489(±3173)	32,644(±3041) cal
11	PLD-22900	No.3	■ X層	炭化材	-25.23±0.27	-23.043±0.10	33,040±10	34,540(±3069)	34,540(±3069) cal
12	PLD-25430	SAB6990	■ X層	陸産貝類(カタツムリ)	-9.64±0.22	-24.087±0.52	34,103±10	36,601(±3646)	37,903(±3646) cal

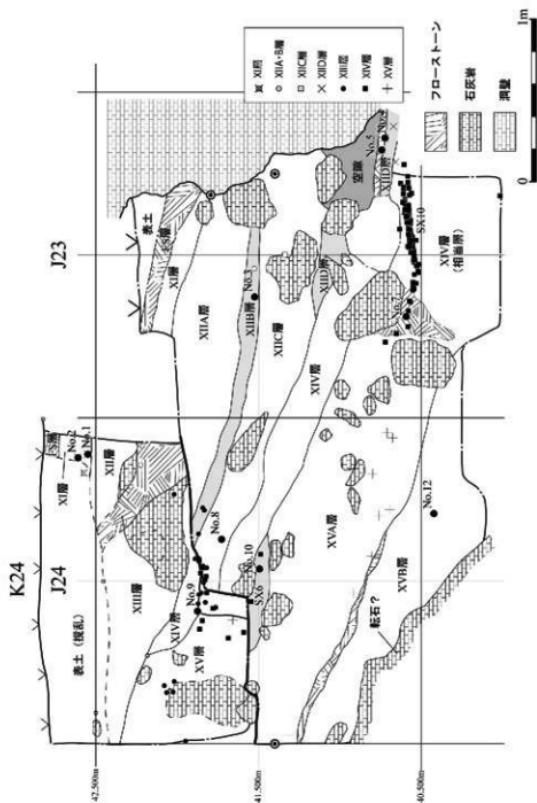


図 10-2 調査区III J23・24 区北壁セクション図および出土遺物 ドットマップ図（立面）
図左上はK24 区北壁セクション図を合成。図中の番号は表 10-2 の番号に対応する。



図 10-3 調査区IIIの調査状況（左）と J23・24 北壁セクション写真（右）

第10章 調査区Ⅲ

遺物は非常に少ない。さらに下位のXV層からは、シカ類化石が比較的多く検出されている。以上のように調査区Ⅲの発掘によって、調査区Ⅰの旧石器時代（後期更新世）の堆積層が西側洞口外まで連続していることが確認できた。なお、岩底ラインより外側（23列より西側）では堆積環境が異なるためか、動物遺骸等の保存状態は不良であった。

放射性炭素年代測定の結果、X層からは約15500～14000年前、XIIIB層からは約18500年前、XIID層からは約23000～22500年前、XIII・XIV層からは約37500～31000年前、XV層からは約38500年前の年代値が得られている。このことから、XIID層が調査区ⅠのⅡ-2層に、XIIA～XIIC層が調査区ⅠのⅡ-1層に、XI層が調査区ⅠのⅠ層にそれぞれ対比できるものと考えられる。XIID層とXIV層との間には相当の年代的隔たりがあるが、その解釈については今後の課題である。

やや特殊な状況として、J23区ではXIID層の下位にXIV層類似の褐色土層が厚く堆積しており（図10-2のXIV層（相当層）部分）、現在のところ、明確にXV層と判断できる堆積層が確認できていない。局所的な現象と思われるが、今後の検討を要する点である。

3. 遺構

調査区Ⅲでは赤色土・炭化物集中部3箇所を確認した。SX05はK24区のXIV層上部、SX06はJ24区のXIV層下部、SX10はJ23区のXIV層（相当層）で検出された。SX05とSX06は、薄い間層を挟んで上下に重複する。いずれも堆積層の一部がわずかに赤化し、赤色・黒色の土壤粒や炭化物が周囲に分布するという程度のものであるが、SX06ではやや赤化の程度が強かった。SX06については、磁化研究を実施した結果、被熱の可能性が示されており、炉址の可能性が考えられる（分析・考察編V参照）。これらの周囲では遺物の出土は乏しく、わずかにSX06の周囲からイノシシの歯1点が得られたが（図10-8：1）、この周囲では擾乱が著しく、確実にSX06に伴うかは定かでない。なお、SX10についてはトレンチ内で検出されたため面的に精査することが難しく、赤色・黒色土壤粒および炭化物の座標を記録するに留めた（図10-2にドットマップを示す）。

4. 遺物

調査区Ⅲからは、動物遺骸や炭化物等の遺物が多く出土したが、その多くは甲殻類、淡水貝類、陸産貝類で、獸骨や人工遺物は乏しい。XII層からは貝器（図8-26:25）を含む海産貝類や魚骨、骨片が少量出土したほか、上述のようにXIV層下部で検出されたSX06の周囲からは、イノシシの歯1点（図10-8：1）が出土した。XIII、XV層からは保存状態の良い下顎骨を含むシカ類化石が出土した。このほか、擾乱層中から石英が1点得られている（図10-8：2）ので、合わせて図示しておく。

表10-3 調査区Ⅲ検出遺構リスト

遺構番号	調査区	層	検出年月日	種別	規模	放射性炭素年代	備考
SX05	Ⅲ	XIV層上部	20120817	赤色土・炭化物集中部	L. 57m × (W. 34m)	27380 ^{14}C BP (PLD-23428)	
SX06	Ⅲ	XIV層下部	20120904	赤色土・炭化物集中部	L. 83m × (W. 53m)	30273 ^{14}C BP (PLD-23291) 33043 ^{14}C BP (PLD-23290)	磁化研究実施
SX10	Ⅲ	XIV層	20120919	赤色土・炭化物集中部	L.L. 1m × (W. 70m)	28682 ^{14}C BP (PLD-23429)	

※「規模」の項目の()は調査区内において確認できた規模を示す。Lは長さ、Wは幅。

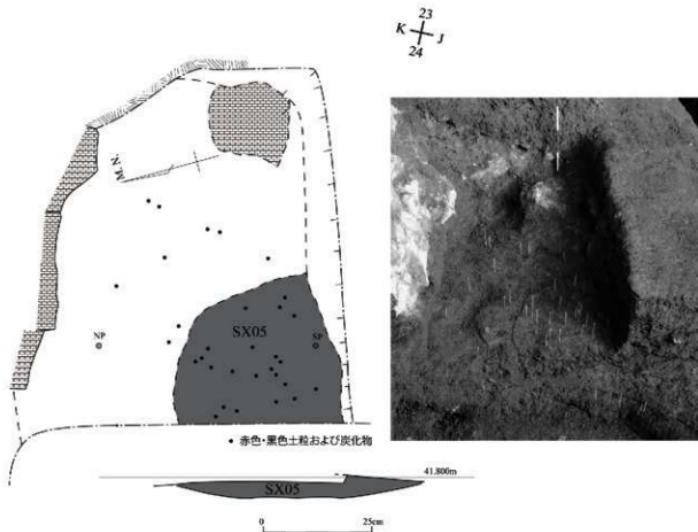


図10-4 SX05 平面・断面図（左）と検出状況写真（右）
竹串は赤色・黒色の土壤粒または炭化物を示す。

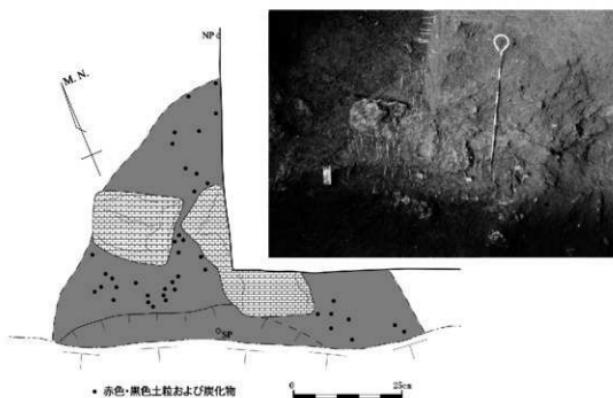


図10-5 SX06 平面図（左）と検出状況写真（右）
竹串は赤色・黒色の土壤粒または炭化物を示す。断面は図10-2 参照。



図10-6 SX10検出状況写真（西より）

竹串は赤色・黒色の土壤粒または炭化物を示す。



図10-7 XV層の獣骨（シカ類下顎骨）出土状況写真

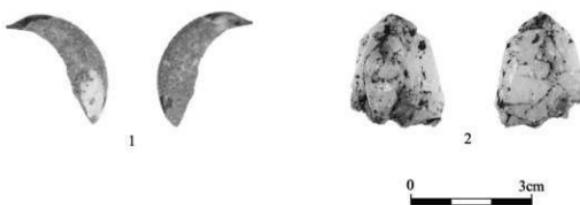


図10-8 SX06出土のイノシシ歯（左）と攢乱層出土の石英（右）